

企業の内部環境の変化による事業領域のあり方の検討

経営デザインシート作成の背景

- 株式会社エレドック沖縄は、機械設備事業やエレベーターメンテナンスを主な業務としてきた。
- その中で、同社はエレベーターメンテナンスのノウハウを見える化し、そのノウハウを社内で共有し、各技術者のレベルを高めることで価値を提供する知財活動を推進してきた。
- その一方で、同社の成長にしたがってベテラン技術者の高齢化も進んできたことから、その対応として、ベテラン技術者の活躍の場をこれまでの高所作業から地上作業にも広げるべく、新たにフィットネス機器分野への進出を展開している。
- この事業領域の拡大を効果的に推し進めるため、知的財産の見直しや提供する価値のあり方を検討し、それを従業員と共有するため、沖縄県知財総合支援窓口の専門家派遣の支援を受け、「経営デザインシート」を作成。

経営デザインシート作成のプロセス

経営デザインシート作成にかかる情報の整理・分析

- ビジョン・方針の明確化
- 企業の外部環境・内部環境の変化の整理
- 今後の事業のあり方についての分析

経営デザインシートの作成

従業員・関係者への経営デザインシートの情報共有

- 経営デザインシートについての説明会
- 経営デザインシートについてのヒアリング



従業員への説明会

経営デザインシートを活用した感想・効果

社長：

- 「エレクトロニクス」の分野はこれからさらに広がっていく。そのような中で従業員一人一人が「エレクトロニクスドクター」「エレクトロニクスドクター」として活躍してほしい、という考えに基づき、「経営デザインシート」を作成した。シートに記載されている変化に対応していくことが重要。
- これからの市場からは、「コトづくり」が求められるようになる。自分たちが社会に対して提示したい「コト」を自社の技術でどう実現していくかが重要。そのような観点からも「経営デザインシート」を活用したい。
- 「経営デザインシート」は今後、若手従業員の発想を取り入れて、柔軟に更新していきたい。

従業員：

- 社長の長期的なビジョンや方針がストーリーとして理解できて、社長のもとで頑張りたいという気持ちを強くすることができた。
- 自社で行っている事業や自分の業務が、何のためのものか理解しやすくなった。事業領域が広がってきても、「仕事が増える」と考えるのではなく、新しい仕事に対する心構えができる。

顧問社労士：

- 「経営デザインシート」の活用方法として、新規事業の検討や、事業承継での引き継ぎなどがあると思われるが、それにとどまらず、ビジョンを明確化し、自社の組織の再構築や人事戦略・雇用計画の策定などにも使うことが期待できる。

支援専門家の観点：

- 社長のビジョンが反映されたものができ、実現性の高いものとなった。
- さらなる未来像、たとえば10年後の社会がどうなっており、その社会での働き方や技術はどうなっているかを考え、「経営デザインシート」に反映していくことも効果的になると考えられる。